



信徒マリアニストの手引き



この人（イエス・キリスト）が何か言いつけたら、
そのとおりにしてください。（ヨハネ 2:5）

日本信徒マリアニスト共同体



Blessed William Joseph
Chaminade

Mother Adèle de Batz
de Trenquelléon

Marie Thérèse
de Lamourous



Shrine of Our Lady of the Pillar in Saragossa, Spain

【clm-mlc.org/english から引用】

目次

1章 マリアニストとして生きる

1. マリアニスト家族の歴史と精神	1
(1) 福者ギョーム・ヨゼフ・シャミナード	2
(2) 尊者アデル・ド・バツ・ド・トランケレオン	3
(3) 尊者マリー・テレーズ・ド・ラムルス	5
(4) マリアニスト家族の各グループの誕生	7
(5) マリアニスト家族の精神	9
2. 信徒マリアニスト共同体の精神と目標	9
3. マリアニストの霊的生活	11
(1) 信仰	11
(2) 祈り	12
(3) 福音宣教・みな宣教者	12
(4) マリアの使命への参与	12
(5) 共同体・家庭的精神	13
(6) 多様性の一致	14
(7) 教会の使命に奉仕するマリアニスト	14

2章 マリアへの奉獻と信徒マリアニスト

1. マリアの使命	16
2. マリアの子としての身分に生きる	17
3. マリアニスト家族の中での奉獻	17
(1) マリアの使命に対する信仰の行為	17
(2) イエスの奉獻の延長	18
4. マリアとの契約	18
5. 信徒マリアニストの成長の歩み	19
(1) 二つの歩み	19
(2) 第一の歩み	21
(3) 第二の歩み	23
6. 結び	25

3章 マリアニスト家族の組織

1. マリアニスト家族	28
2. 世界マリアニスト家族評議会	29
3. 信徒マリアニスト共同体 (MLC)	29
(1) 国際チーム	32
(2) 世界のマリアニスト家族組織	33
(3) 世界会議	34
4. 日本信徒マリアニスト共同体 (日本MLC)	34
(1) 共同体	34
(2) 総会・代表者会議・評議会	35
(3) 規約など	36
(4) 会員としての心得	36

付録1 キリスト者の信仰の基本

	37
1. 父なる神の救いへの招き	37
(1) キリストの派遣	40
(2) 教会の誕生	40
(3) 聖霊の派遣	40
(4) キリスト者	40
2. キリスト者の応え	40
(1) 洗礼	41
(2) 堅信	41
3. マリア	

付録2 「マリアへの奉獻」養成プログラム

付録3 お勧めの書籍

1 章

マリアニストとして生きる

マリアニスト家族とは、マリアニストの霊性を生きる種々のグループや人々の総称であり、家族の構成員をマリアニストと呼んでいます。

この家族は現在、信徒マリアニスト共同体 (MLC : Marianist Lay Communities の略で以下MLCと記述する^{*1})、在俗会のアリアンス・マリアル(AM)、汚れなきマリア修道会(FMI)、マリア会(SM)から構成され、歴史的にこの順に誕生してきました。

各グループは、固有の組織を持ち、完全な責任と自治を有しています。しかし、同じ霊性の遺産、緊密に結ばれてきた歴史的な体験、祈りにおける深い一致と相互交流、継続的な兄弟的意見交換、時には同一の宣教活動への参加と協力、グループ相互の緊密な絆を持っています。各グループはそれぞれ創立のカリスマを大切にしながら、マリアニスト家族が存在している時代と種々異なる文化の必要にそのカリスマを適応させていきます。

信徒マリアニストは、MLCという略語のもとに、大陸規模や全国規模で組織された種々のグループを包含し、その呼称はその国の歴史的背景や環境によって異なっています。

1. マリアニスト家族の歴史と精神

マリアニスト家族は、その霊性を創立者たちのカリスマから受けています。福者ギョーム・ヨゼフ・シャミナード神父は、生涯を通して、

注 *1 MLC、AM、FMI、SMの略称については、3章マリアニスト家族の組織を参照

また特に、スペインのサラゴサの「柱の聖母」聖堂で、マリアからの強い霊示を受けました。尊者アデル・ド・バツ・ド・トランケレオンおよび尊者マリー・テレーズ・ド・ラムルスと共に、シャミナード神父はマリアと一致して、この霊示を信徒の共同体の設立という方法でフランスにおける教会の復興のための新しいビジョンに結実させました。



柱の聖母

(1) 福者ギョーム・ヨゼフ・シャミナード

シャミナード師は、1761年4月8日、ペリグーに生まれました。祈ることやマリアに対する優しく強固な信心をギョームに教えたのは母親でした。マリアへのこの信心は、やがて師の信心の中心となり、使徒職の大きな糧となるのです。ミュシダンの小神学校、次いでボルドー、パリで学んだ後、1785年、司祭に叙階されました。

1789年にフランス革命がなかったら、おそらく師は、それまでミュシダンの小神学校の会計係と教師の仕事が続けていたに違いありません。1790年、シャミナード神父は、フランス革命による聖職者市民憲章によって統制された司祭として生きることを拒絶し、師を捕らえようとする官憲の目を避けて、ミュシダンを去らなければなりません。1791年、恐怖政治の時代、ボルドーに入り、命がけて秘密裏に聖務を行っていました。1795年から2年間、宗教迫害は一時的に中断されましたが、1797年に迫害が再開され、シャミナード神父はスペインに亡命を余儀なくされます。亡命の間、サラゴサの「柱の聖母」の下で祈りと恵みの日々を過ごし、強い確信と内的恵みを受けました。ここで師は将来のマリア

ニスト家族のビジョンを見たのです。

1800年、39歳の時、師はボルドーに戻り、現在の信徒マリアニスト共同体(MLC)の前身である「コングレガシオン」*2を創立し、大成功をおさめます。

1809年、「エタ」(Etat religieux dans le monde : 在俗会)が誕生します。これは世間で生活しながら、神に身を捧げて生きることを望む人々のためのものです。この間にシャミナード神父は、ラムルスを助けて、「ミゼリコルド会」の創立に関わります。1816年にはメール・アデル・トランケレオンと共に女子の「**汚れなきマリア修道会**」を、1817年には、男子の「**マリア会**」を創立します。この両修道会はコングレガシオンの活力から生まれました。シャミナード神父はその後の生涯の日々を、自ら創立した事業への奉仕のうちに過ごし、1850年1月22日、ボルドーで亡くなりました。

(2) 尊者アデル・ド・バッツ・ド・トランケレオン

尊者アデルはフランス革命直前の1789年6月10日、アジャンからあまり遠くないフガロールに生まれました。父親のシャルル・ド・バッツ男爵は、フランス王の近衛隊長を勤め、母親は聖ルイ王の血を引く貴族でした。1797年、アデルは母親と共にスペイン、次いでポルトガルに亡命します。1801年、アデルはスペインのサンセバスチャンで初聖体を受けますが、この時すでに神の呼びかけを感じてカルメル会入会を希望しています。しかし、アデルはまだ若すぎました。

注*2 コングレガシオンは、マリアを中心に集まり、すべての人が参加できるものであった。(なお、ソダリティはコングレガシオンの英訳)

1801年、家族はフランスに戻ってきます。1803年、アデルは堅信の秘跡を受けると、ますますカルメル会への夢をふくらませていきます。入会を待ちながら、1804年、友人と共に、祈りとキリスト教の信仰を広めることを目的とした「小さな会」を作ります。これはボルドーのコングレガシオンと非常に性格が似ていました。1808年、ボルドーのコングレガシオンとの撰理的な出会いの後、アデルとシャミナード神父との間で手紙の交換が始まり、やがてアデルの「小さな会」はボルドーのコングレガシオンに合流されます。病気の父親の看護を続けながら、アデルは次第にカルメル会とは異なる新しい形の修道生活に思いをはせていきます。父親が亡くなると、翌年の1816年、アデルはついにシャミナード神父の協力の下に、女子の「**汚れなきマリア修道会**」を創立しました。

新しい修道会の目標は宣教です。シャミナード師は「あなた方の修道会は宣教修道女のみで構成されなければなりません。」(1815年10月3日)と手紙に書いています。

アデルは、4つの修道院(1820年トナンス、1824年コンドンとボルドー、1826年フランス東部のアルボア)を創立しました。その活動は多岐にわたっています。田舎での宣教のために、アデルは「エタ」とは異なる「第三会」の発展に心を配っていました。「弱いものと共に弱いものでありなさい。」と彼女は書いています。

アデルの健康はすぐれず、徐々にその活動はせばめられていきました。「すべては神のおぼし召しのままに…」1827年、容態は次第に悪化し、1828年1月10日、「ダビデの子にホザンナ!」と叫んだ後、息を引き取りました。わずか39歳でした。

(3) 尊者マリー・テレーズ・ド・ラムルス

尊者ラムルスは、1754年11月1日、ボルドーの南の小さな田舎町バルザックに生まれました。バルザックやピアノの彼女の母の家で農業、ブドウ畑の管理、牧畜について多くのことを学びました。母親の指導の下で、マリーは読み書きをはじめとして多くの教育を受けました。マリーの母が1785年に死去してのち、彼女は霊的指導者を探し求めました。カルメル会に入りたいと望みましたが健康状態と家族の世話についての問題から、この召し出しに従えなくなりました。フランス革命が起こってから、マリーは地下教会の信仰深いメンバーとなりました。1794年、マリーは老いた父、二人の妹、二人の甥、姪を連れてピアノの住まいに移ります。マリーはしばらくの間、信仰深いカトリックの共同体で、日曜日の礼拝のために人々を集め、洗礼から堅信までの秘跡を受ける準備をさせました。

1795年からボルドーに聖務のために来ていたシャミナード神父に出会い、マリーは亡くなる1836年までの40年間、シャミナード神父の最も親密な協力者になりました。シャミナード神父の指導によって、彼女は霊的な成長を続けました。やがて革命が終わり、平和な田舎の生活に落ち着いた頃に、以前の友人であるジャンヌ・ド・ピションがマリーを訪ねて来ました。彼女は今までの生き方を捨てて新しい生活を望む娼婦たちの更生のために、自分の時間、お金、家までもささげた人でした。この仕事の必要性は以前よりも高まっていました。革命による混乱、戦争による数多くの夫、父、息子たちの死、これらが彼女たちを老いも若きも、なんとか生きていこうと娼婦という道へと追いやったからでした。その仕事を引き継いで欲しいと頼まれた時、マリーは即座に断りました。シャミナード神父もこの構想に乗り気ではなかったのです。そんな時にマリーは、

娼婦たちが地獄に落ちていく夢を見ました。まだ時間があるうちにどうして助けてくれなかったのかと叫びながら落ちていくのでした。この夢に深く心を動かされたマリーは、ボルドーのラプラントの家にシャミナード神父とジャンヌ・ド・ピションと一緒に向かいました。マリーは女性たちに会い、その時からそこに留まったのです。マリー・テレーズはその長い人生の後半を、多くの女性たちが高潔で献身的で誠実なクリスチャンとなるように支援しながら生きました。ジャンヌ・コルドはこの事業の最初の頃の協力者で、革命が起きて修道院から撤去させられた時に小さな聖母像を持ち出していました。マリーのこの事業は、この聖母像にちなんで、「ミゼリコルド（慈愛）の家」と呼ばれました。いくつもの同様の事業では彼女を「創立者」と呼び、その着想を彼女のミゼリコルドから得ていました。今日でもこれらのいくつかは運営されています。マリーの関心事であったミゼリコルドとコングレガシオンは、その中心を地方にいましたが、そのビジョンは遠くまで広がっていきます。ボルドーから外国に旅立っていく宣教師たちはミゼリコルドを訪問するようになりました。宣教師たちは、女性たちのために、必要としている事柄のために祈ることを約束し、女性たちは宣教師たちと宣教地の人々の改宗のために祈りました。マリー・テレーズのマリアニスト家族への影響は広範囲におよんでいます。彼女が半生を捧げて取り組んだ事業は、わたしたちすべてのキリスト者に次の言葉を思い出させます。

「はっきり言うておく。わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。」（マタイ 25:40）

(4) マリアニスト家族の各グループの誕生

信徒のグループ：コングレガシオン

正式の誕生は1801年2月2日ですが、その出発は1800年12月8日にさかのぼります。ミサの後、シャミナード神父は会衆の中の二人の青年を呼び、次に来る時にはそれぞれ一人ずつ友人を連れてくるようにと言いました。翌週、集まった青年は4人になり、翌年2月2日には12名という象徴的な数になりました。こうして、この日「**コングレガシオン**」が創立されました。

コングレガシオンという言葉は、「共同体で生きるキリスト者の兄弟的集まり」を意味します。今日、わたしたちは、このコングレガシオンを「**信徒マリアニスト共同体 (MLC)**」と呼んでいます。彼らは共同体の中で自分の信仰を深めながら、無信仰者、宗教無関心者に対する宣教、子どもたちに対する教理の教授、病院や刑務所への慰問などの慈善事業を展開していきました。こうしてボルドーのコングレガシオンは急速に発展し、1年後の1802年2月2日には100人を数え、その後、暫くして300人を超えました。

一方、ボルドーから程遠くない地で、数年遅れて1804年の夏、まだ15歳のアデル・ド・バツ・ド・トランケレオンは、友人のジャンヌ・デイシェと共に、若い娘たちの「小さな会」を創立しています。その精神は、シャミナード神父のコングレガシオンと非常に似ていました。「人々をイエス・キリストに導くよう努めましょう。」1808年、アデルの「小さな会」は、当時飛躍的発展をとげていたボルドーのコングレガシオンと合流します。

これら信徒の小共同体を特徴づけていたものは、種々の「新しさ」

です。その共同体のメンバーは、各自が自分の生きる社会環境の中で使徒となります。この共同体は、すべての社会階層に開かれ、その組織はしっかりとした独創的なものでした。公開集会では、特に当時の大きな問題を取り上げています。彼らは恐れずに社会そのものに勇敢に立ち向かっていきました。

この大胆さはどこから来たのでしょうか。これはコングレガシオンが無原罪であり神の母であるマリアのご保護の下に置かれ、またその奉仕のために存在することを自覚し、マリアの「援助者」であり「道具」でありたいと願っていたからです。「マリアのみ名」によって計画し、行動する時、間違ふことはありません。1854年、「無原罪の御宿り」の教えが信仰の教義として宣言される以前に、シャミナード師はすでに「無原罪の御宿り」の熱心な擁護者でした。そして現在、このグループは信徒マリアニスト共同体（MLC）と呼ばれ、創立時と同じ精神の下に活動を続けています。

マリアニスト家族のグループ

コングレガシオンのメンバーの中には、かなり早い時期から修道生活への願望が芽生えてきます。1816年5月、信仰教育を目指す「**汚れなきマリア修道会**」が創立されました。翌、1817年には男子の「**マリア会**」が誕生します。コングレガシオンの創立当初から、特に1809年以降、「**エタ**（社会で生活する修道者）」という身分が存在していましたが、両修道会の創立以降ほとんど姿を消してしまいます。しかし、それは1960年「**アリアンス・マリアル*3**」の名の下に、再生します。

注 *3 3章マリアニスト家族の組織を参照

(5) マリアニスト家族の精神

マリアニスト家族のすべてのグループが基本的に持つ精神は、次のシャミナード神父の言葉に凝縮されています。「マリアニスト家族の精神は、世に聖者の民、神の民の姿を示すことにあります。つまり、初代教会におけるように今日も、福音が精神と文字の要求するところに従って、完全に生きられることを証しすることです。」

このような福音宣教の考え方を実践していくために、「共同体が本当に福音を生きているか」、「人々を惹き付ける魅力ある共同体であるか」が大変重要なポイントです。

革命によって、フランスではキリスト教全体は疑問視され、意味のないものと考えられ、無視されていました。当時のフランス社会では、ただ、キリスト教を説明してもほとんど受け入れられなかったのです。しかし、実際に福音を生きている人々の証しは無視できませんでした。

今日でも、「福音は文字通り生きられる」、ということを共同体の模範によって証しすることです。この精神こそがまさに、マリアニスト家族の精神です。

2. 信徒マリアニスト共同体の精神と目標

わたしたち信徒マリアニスト共同体 (MLC) のメンバーは、ボルドーのコングレガシオンを生かしていた以下の精神を同じように生きています。

- ① 現代社会の中で、福音のすべての要請に応じて生きながら、同時に、福音宣教者でありたいと願うキリスト者の共同体を形成します。
- ② マリアニスト家族の中で生きながら、自らを教会の母であるマリアに奉獻し、この奉獻の中でキリストと一致し、自分たちの人格的成長を

実現しながら、福音宣教の活力をくみ取っていきます。

- ③ MLCはあらゆる年齢と環境・文化に生きる人々に開かれ、この世界の中で神の国の建設に従事するマリアに仕えるキリスト者の小さな共同体として、教会の中で生きていきます。「コングレガシオンの各会員は、生涯にわたって福音を宣教する者です。そして各共同体は、永遠に生き続ける福音宣教者です。」(シャミナード神父)

MLCはその理想を実現するために、次の**5つの目標**を掲げます。

- ① **祈り**：祈りを大切にします。典礼、個人的祈り、集いでの祈り等、種々の形態があります。MLCはその会員に熱意を持って祈るよう求めます。
- ② **信仰を深める**：キリストの教会の教えを理解して、キリスト教の教義の研究と、現代社会の思想と出来事をキリストの光の下に考察します。この信仰を深める方法は、各共同体に委ねられます。
- ③ **使徒活動 (福音宣教)**：MLCはその会員に福音宣教の精神を積極的に伝えていくことが求められます。この精神は、具体的に一人ひとりの生活の中で生かされ、各人に応じた種々の形となって表現されます。シャミナード神父がコングレガシオンを創立した本当の意図は、使徒たち (福音宣教者) のグループを形成することでした。
- ④ **マリアを知り、愛し、マリアに仕えること**：聖母マリアはMLCの中で重要な「場」を占めています。教会を築くために、マリアをよりよく知り、マリアに自分を委ね、マリアに従うことを学びます。
- ⑤ **兄弟的生活**：MLCは初代教会のキリスト者の共同体に倣って、福音の精神の上に築かれ、愛情と相互援助、すべてのメンバーとの分かち

合いがその特徴となっています。各人はその兄弟的生活に責任を負いながら、真にMLCの一員となり、受けるより与えることを喜ぶ者となるよう努めます。

これらの目標は互いに結び合わされており、切り離すことはできません。このMLCを最も特徴づけるもの、この共同体に独特の容貌を与えるもの、福音宣教の使徒的力の基礎を与えるものは、**マリアへの奉獻**です。マリアニスト家族の創立者シャミナード神父が理解したように、マリアとの契約に基づく奉獻です。この奉獻は、ある程度の期間、MLCの生活に参加した後におこなわれます。この奉獻については、**2章**で詳しく述べます。

3. マリアニストの靈的生活

(1) 信仰

創立者シャミナード神父は、マリアニストの生活全体の基礎は信仰であり、マリアニストは何よりも先ず信仰によって生きようと繰り返し強調しています。シャミナード神父にとって、信仰は、「神の賜物」であり、「強力な推進力」であり、「最も不可能と思えることも可能にする」ものです。師は、わたしたちに特に「心の信仰」を生きよう強く勧めています。この信仰は、人々とこの世界に対するわたしたちのまなざしを、キリストと御父と同じまなざし、ポジティブで愛情深いまなざしに変えてくれます。アデルと共に言いましょう。「信仰の精神で生きましょう…信仰の人になりましょう！」(アデルの言葉)

(2) 祈り

祈りによって絶えずキリストのうちに留まらない限り、わたしたちはキリストを証しする力も大胆さも湧いてきません。創立者は祈りを非常に重要視しています。シャミナード神父は、その弟子たちのために祈りの方法を完成し、「聖なる人となる」ことを義務づけました。祈りによって常に神と共にいることなしに、どうして聖なる人になれましょうか。

(3) 福音宣教・みな宣教者

現代の人々に、御父、御子、聖霊を知らせ、愛させること、全人類をキリストの体である教会(エフェソ 1:23)に集めるよう努めること、これがマリアニスト家族の使命であり、存在理由です。教皇パウロ 6 世が述べているように、人々は教師より証人を必要としています。証人とは人々を知り、愛し、ありのままの姿を受け入れ、人々の内に働いている聖霊に気づき、協力するために共にいる人です。わたしたちは、このような証人とならなければなりません。「成功の秘訣は、自分を全く空にし、聖霊に身を委ねる」ことをわたしたちは知っています。わたしたちが弱いからと言って恐れることはありません。なぜなら、「恵みはすべてを可能にする」からです。神に信頼しましょう。わたしたちの内に宿っている希望を告げるのをためらってはなりません。

(4) マリアの使命への参与

柱の聖母のみもとで長い間祈り、黙想するうちに、シャミナード神父は救いの歴史と現代世界におけるマリアの積極的役割を理解しました。

信仰に満ちたマリアは、御子のすべての秘義を心に納め、思い巡らし

ます。マリアは世界にキリストを与え、人々の中にキリストを根づかせます。御子の秘義に固く結ばれ、「約束された婦人」であるマリアは、カナの婚礼において召使たちに「この人が何か言いつけたら、そのとおりにしてください」（ヨハネ 2:5）と言われます。このように、マリアは人々をイエス・キリストへの信仰と信頼へと導く女性です。

シャミナード神父はこのマリアの使命を継続するために、マリアに属する新しい家族、マリアの使命を援助するマリアニスト家族の創立を思い立ちました。

(5) 共同体・家庭的精神

初代教会の宣教の活力は何によってもたらされたのでしょうか。それはキリスト信者の共同体です。初代のキリスト信者は、殉教者、使徒たちも含めて、共同体で教育されました。

わたしたちが彼らと同じような宣教の活力を得るためには、初代教会におけるような共同体が必要です。シャミナード神父は、「使徒言行録」冒頭の数章の中から、マリアニスト共同体の靈性をくみ取りました。

初代キリスト教共同体では、すべての人は「一つの心、一つの魂」（使徒言行録 2:44-46 参照）となっていました。シャミナード神父は、「家庭的精神」を持ったマリアニスト共同体を望んでいました。その中で信者は自己認識を深め、一層有効に助け合い、兄弟のように愛し合うことができるからです。

初代共同体のキリスト信者たちは、信仰と祈りを分かち合いました。シャミナード神父は、マリアニストの共同体は信仰の共同体であり、信徒が共に祈り、生活し、喜びを持って信仰を分かち合うことができるこ

とを望んでいました。福音に生かされたいきいきとした共同体の中でこそ、信仰は最もよく伝えられ、成長し、実を結ぶことができるからです。

彼らは恐れませんでした。それどころか、大胆な宣教者でした。シャミナード神父は、世の中に存在する見える共同体を望みました。マリアニストよ、世界の中で勇敢な信仰の証人となりましょう。

(6) 多様性の一致

現代社会では、限られた狭い世界で生きていくのは困難な状況になってきています。政治、経済、文化、科学、情報の国際化、人口の流動性等に表される多様な世界の中で、一致と協力が不可欠となっています。

教会においては、地域教会の独自性を尊重しつつ、世界レベルで教会の存在理由を考えなければならない時に来ています。

信徒マリアニスト共同体 (MLC)、アリアンス・マリアル(AM)、汚れなきマリア修道会(FMI)、マリア会(SM)から成るマリアニスト家族は、その多様な構成員からも、地域教会の独自性と普遍教会の一致の姿を忠実に映し出そうと努めます。

(7) 教会の使命に奉仕するマリアニスト

シャミナード神父は、教区司祭として常に信徒の信仰における成長と神の民である教会の発展とその奉仕に全力を傾けていました。革命のさなかには命の危険を顧みず、信徒を支え、力づけています。その後、亡命の3年間、柱の聖母の下で祈り、黙想する中で、師は教会刷新のビジョンと使命を受けます。教会刷新は先ず、信徒の共同体、十分に養成され確信に満ちた信徒たちの共同体によってなされるものです。この共同

体がMLCの姿です。したがって、MLCの各メンバーはマリアニストとしての自覚と使命感を持ちながら、創立者が持っていた広い教會的感覚を身につけて、教會奉仕に当たらなければなりません。

2章

マリアへの奉獻と信徒マリアニスト



1. マリアの使命

マリアニスト家族の中での「マリアへの奉獻」を理解するためには、キリストの秘義、神のひとり子がマリアの子となって、全人類の救いを実現した秘義を黙想する必要があります。

神はひとり子を与えるほど世を愛されました。神はその同じ愛をもって、ひとり子をマリアの子とされます。聖霊によって宿り、マリアから生まれたイエスは、マリアに養われ、成長します。

マリアは救い主キリストの使命の中で、み言葉の受肉に参加したように、キリストの体である教会においても霊的な母として、キリストのみ業に協力し続けます。これが、マリアの使命です。

2. マリアの子としての身分に生きる

イエスはマリアによって生まれ、育まれました。つまりイエスはマリアの子です。そしてわたしたちもまた、マリアの子です。なぜなら、洗礼の秘跡によってわたしたちはイエス御自身の命に与かり、キリストとひとつにされたからです。わたしたちマリアニストはこの事実をはっきりと意識しながら生きていきます。こうして徐々にマリアの子キリストの姿がわたしたちの内に形作られていきます。

では、マリアの子として生きるということはどういうことなのでしょう。使徒ヨハネはキリストの弟子のモデルとして、わたしたちの取るべき生活態度を福音書の中で示しています。十字架の下で、キリストから聞いた「この婦人は、あなたの母です」の声に従って、ヨハネはマリアを自分のところに引き取り、母として受け入れました。(ヨハネ 19:27 参照)

洗礼を受けて神の子とされたすべての人は、ヨハネに倣ってマリアを自分の母として迎え、キリストの姿に似たものとして育ててくださる母の配慮に身を委ねることを、イエスご自身が望んでおられるのです。

3. マリアニスト家族の中での奉獻

(1) マリアの使命に対する信仰の行為

シャミナード神父は「マリアへの奉獻」の内容を以下の2項目で示しています。これらは、神がマリアについて啓示されたことと、教会がマリアについてわたしたちに伝えていることの具体化にほかなりません。

① マリアを知り、愛し、マリアに仕えること

「マリアへの奉獻」は、特に使徒ヨハネがわたしたちの模範です。

ヨハネは、十字架上のイエスによってなされた偉大な啓示、「この

婦人は、あなたの母です」を全世界に知らせました。マリアニストはこの重要な真理を奉獻によって証します。具体的には、わたしたちマリアニストは、救い主の母であり、わたしたちの母であるマリアを知り、愛するよう努めます。

② マリアの使命に参加すること

「マリアへの奉獻」は、マリアを知らせ、愛し、マリアの証人となるだけに留まらず、さらに、キリストを人々に与え、人々のうちにキリストを育てるマリアの母としての使命に参加することでもあります。

(2) イエスの奉獻の延長

マリアニスト家族における「マリアへの奉獻」は、それ自身が目的ではありません。それはイエス・キリストの父なる神への奉獻の実現と延長です。神殿で幼いイエスを父なる神に奉獻したマリアは、十字架上のイエスの奉獻にも立ち会いながら、イエスとともに、イエスによって救われる全人類をも御父に捧げました。

「マリアへの奉獻」は、イエスが母マリアによって自らを父なる神に奉獻されたように、わたしたちもこのイエスに倣って、自分自身を神に奉獻することに他なりません。

4. マリアとの契約

シャミナード神父は、マリアニスト家族における「マリアへの奉獻」はマリアと奉獻者との間で交わす真の「契約」であると確信していました。「契約」や「約束」は、信頼関係の表現です。従って、「マリアへの奉獻」

は、マリアと信頼関係を結ぶことに他なりません。

「契約」の思想は、旧約・新約聖書全体を通して一貫して流れている思想です。旧約・新約と言う表現は、それぞれ旧い契約、新しい契約を意味しています。すなわち、全聖書は神と人間との間で交わされる契約が中心テーマとなっています。聖書は、神と人間との深い信頼関係が中心に記されている書物であり、それを民がどのように生きていったか、あるいは、神の愛と信頼をどんなに踏みにじっていったか、それに対して神がどのように対処していかれたか等がいきいきと記されている書物です。

「マリアとの契約」も、この神との契約の流れの中にあります。十字架上のイエスが仲立ちとなって結んだマリアとヨハネの間の契約の延長にほかなりません。マリアはヨハネを子として迎え、ヨハネはマリアを母として迎えます。このマリアとヨハネの深い信頼関係に基づく母と子となるという契約は、洗礼を通してキリストの命に与ることによって潜在的に含まれています。

しかし、マリアに奉献することを通して、さらに自覚的にこの現実を自分のものとし、その現実深く生きていくことを通して、他の人々に、すべての人は等しくマリアの子であることを証します。

5. 信徒マリアニストの成長の歩み^{*4}

(1) 二つの歩み

マリアの知識へとわたしたちを導くのは、主イエス・キリストの知識です。同じく、マリアの知識が、わたしたちの主イエス・キリストの最高の

注^{*4} 「マリアの宣教者」〈参考文献(9)〉を参考にまとめました。

知識へとわたしたちを導きます。マリアに関するシャミナード神父の教えを生かしている歩みは、次の二つです。

第一の歩み：イエス・キリストは、イエスの母マリアをわたしたちに知らせ、また、教会の中で、イエスのようにマリアを愛し、崇め、模倣し、マリアに祈るように導かれます。

第二の歩み：わたしたちに知られ、愛され、崇められているイエスの母は、わたしたちを深く愛しています。母マリアは教会におけるイエスに対する深く完全な奉仕へとわたしたちを導いています。

第一の歩みは、すべてのキリスト者にとって、キリスト教信仰におけるマリアの位置の発見です。シャミナード神父にとって、この発見は、マリアに対する真のキリスト教的「信心」の源泉となり、公的表明としての奉獻の行為として宣言されました。洗礼と堅信の約束を真摯に生きようとしているすべての信者の生活の中でマリアの位置を明確にしています。

第二の歩みは、シャミナード神父の弟子たちに固有のもので、大きな恵みであり、一つのカリスマです。このカリスマは、信徒や修道者によって生きられているマリアニストの召命を現すものです。このマリアの使命の発見が、わたしたちの奉仕をマリアに捧げ、マリアに委ねるのです。この段階における「奉獻の行為」によって、マリアニスト家族のグループを通して、聖霊の働きのもとにマリアは常に御子イエスとの大いなる一致をわたしたちの内に形成し、人々をイエス・キリストへと導くために「福音宣教」にわたしたちを駆り立てます。

これら二つの歩みは、わたしたちの生活の中に互いに混じりあっています。第一の歩みは教会にとって、かつては当然のこととして生きられてい

ましたが、今日ではすべてのキリスト者に受け入れられているとは言えないようです。

(2) 第一の歩み ・ ・ ・ ・ 子から母へ

ステップ1：キリストによってマリアを発見すること

わたしたちが洗礼によってイエス・キリストの肢体となるならば、イエス・キリストの関係がわたしたちの関係になります。ですから、イエス・キリストの父は、わたしたちの父でもあるのです。この父に対する関係、キリストとわたしたちの母であるマリアに対する子としての関係、人間はすべてマリアの子であるので、兄弟であるすべての人間に対する兄弟としての関係の中にあるのです。これらの3つの関係、すなわち、父に対する関係、マリアの子としての関係、兄弟であるすべての人に対する関係の中にあるとき、わたしたちはキリスト教の中心にいるのです。キリスト者になることによって、霊的生活の中にマリアが入ってきます。キリスト者、すなわちイエス・キリストによって生きれば生きるほど、キリストにとってマリアがどのような方であられるのか、従って、わたしたちにとってマリアがどのような方であられるのかということをキリストの心の中に発見するようになります。

ステップ2：マリアを知ること

聖書と教会によってマリアを知ること。これがシャミナード神父とその弟子たちの根本的な願いでした。またこれが第二バチカン公会議で教会全体に提示されました。教会憲章 67 には「聖書、聖なる諸教父、教会

博士、教会の典礼について、教導職の指導のもとに研究を重ね、すべての真理と理性、孝愛の根源であるキリストにつねに関わっている聖なる処女（おとめ）の役割と特典とを、正しく解明するようにしなければならぬ。」とあります。

シャミナード神父に関する文書を読むとき、わたしたちは、現代の教会がまさに望んでいる流れの中にいることに気づくのです。

ステップ3：マリアを愛すること

マリアを知ることの幸福は、すでにマリアがわたしたちを愛して下さっているということに気づくことです。この気づきは、聖霊によってわたしたちを「マリアに対する真の信心」へと導いていきます。マリアに対して抱くことができる愛をわたしたちに与えるのは、イエスです。イエスご自身が聖なるマリアに対して抱いておられる愛にわたしたちを参与させておられるともいえます。心の底からマリアを愛する「マリアに対する真の信心」を生きることは、わたしたちの日々の喜びの源泉となります。そのため、この「マリアを愛する真の信心」は喜びと共に多くの人々に自然と大きく広がっていくのです。

ステップ4：この愛を個人的に約束する「マリアへの奉獻」

真の愛は、愛する者との契約の絆で表現されることが必要です。マリアへの奉獻は正にこのことなのです。マリアへのこの奉獻は、洗礼の約束を明らかにしようとするものであり、聖霊によって生かされています。マリアへの奉獻は、マリアに対するイエスの関係である子と母という関係を確立し、強化し、表現しようとするものです。

ステップ5：この奉獻・契約をいかに生きるか

信徒マリアニスト共同体のメンバーとして、わたしたち個人や共同体の生活の中で、マリアの徳に倣い、わたしたちが生きる社会の中で最善を尽くすように目指します。

(3) 第二の歩み ・ ・ ・ ・ 母から子へ

ステップ1：教会におけるわたしたちのカリスマ

聖霊は教会を豊かにし、いっそうキリストに似たもの、さらに人々に仕えるものとするために、数多くの様々なカリスマを教会に与えています。「それらのカリスマは、とくに顕著なもの、またより単純でより広く与えられるものも、すべてまず教会の必要に適応したもの、有益なものであるから、感謝と喜びをもって受けなければならない。」(教会憲章 12) 聖霊は、この固有のカリスマを徐々に発見させます。シャミニード師の生活の中にそれを見ることが出来ます。

ステップ2：マリアの使命を知ること

マリア的カリスマに照らして聖書と教会の歴史を再読すること。

① 聖書の中にマリアの使命を発見すること

- ・ 原罪の物語と救いの歴史における「婦人」の重要性
- ・ 「お告げ」以来、救い主の母であるマリア
- ・ 救い主の生活と使命に一致するマリア
- ・ カルワリオにおいて、イエスによって教会の母として与えられたイエスの母マリア

② 教会の歴史の中にマリアの使命を発見すること

創世記3:15で告示された戦いは、マリアが、歴史の中で特別な役割を帯びていることを示唆しています。今日も、マリアが固有の使命を生きかつ果たしておられること、この使命に参加するように招かれていることにわたしたちは気がつくのです。

ステップ3：「特別な信心」によってマリアを愛すること

ステップ2は、わたしたちを「特別な信心」へと導きます。この「特別な信心」は、わたしたちにマリアをいっそう愛させ、キリスト者の単なる義務以上にわたしたちを聖霊によって駆り立て導きます。この信心は、マリアへの奉仕者として生きることによって現されます。

ステップ4：「愛を献身的に共に生きること」を契約する

マリアニストのグループで霊的な態度を積極的に育てるために、わたしたちがマリアと結ばれ、マリアがわたしたちに結ばれる契約をさらに強固なものにすることになります。このことを通して、マリアの使命にあたってマリアを援助し、聖霊の働きのもとにわたしたちをキリストに似たものへと形成させることになります。

ステップ5：マリアとのこの契約をいかに生きるか

信徒マリアニストの各グループは、「永続的な使命」とみなされます。この家族は、「初代キリスト信者の共同体」の姿を現代に与えます。マリアニスト家族の全構成員は、イエスの福音の宣教者として、マリアならそうなされるであろう方法で「福音宣教」をするよう招かれています。

す。「この人が何か言いつけたら、その通りにしてください」(ヨハネ2 : 5) とマリアは今日もわたしたちに語りかけています。

6. 結び

以上が、信徒マリアニストが日々の歩みの中で「マリアへの奉獻・契約」を実施していく内容です。マリアニストは、この奉獻・契約を新たにし、その精神をいきいきと保つために、毎日「マリアへの奉獻の祈り」と「三時の祈り」を唱える伝統があります。この二つの祈りの中に、マリアニストの精神が要約されていると言えましょう。

【マリアへの奉獻の祈り】

わたしたちの神である主よ、あなたは、すべての人を救い、
ご自分のもとに導くために、おとめマリアから生まれ、
人となられた御子をお遣わしになりました。

マリアによってその御子のみ姿に形作られていくわたしたちを
母マリアに対するキリストの愛にあずかる者とならせてください。

あなたはマリアを御子の秘儀に参与させ、

新しいエワ、生きる者すべての母とされました。

わたしたちが母マリアと交わした契約を

堅固なものとしてください。

わたしたちの献身が、マリアの母としての愛をこの世に広め、

あなたの御子キリストの体である教会を

成長させるものとなりますように。

わたしたちの主、キリストによって。 アーメン

【三時の祈り】

主キリスト、

わたしたちは今、あなたの母とあなたが愛された弟子と共に、

みもとに集いました。

あなたのご逝去の原因となった

わたしたちの罪をお赦してください。

この厳かな救いの時にあなたはわたしたちを心にかけて、

マリアを母としてお与えくださいました。

心から感謝いたします。

母マリア、あなたのご保護にすべてをゆだねるわたしたちを

聖霊の働きに素直な者とならせてください。

聖ヨハネ、わたしたちの生活の中にマリアを迎え、

その使命を果たすために、

惜しむことなく献身させてください。

罪の汚れのないおとめマリアによって

父と子と聖霊が至るところでたたえられますように。

アーメン

【マニフィカト】

世界マリアニスト家族評議会が「マニフィカト」を発行しており、世界で正義のために働く人々を紹介しています。金曜日には、世界のマリアニスト家族が「マニフィカト」を祈る習慣があります。

(マリアの賛歌 ルカ 1:46-55)

わたしの魂は主をあがめ、わたしの霊は救い主である神を喜びたたえます。
身分の低い、この主のはしためにも目を留めてくださったからです。
今から後、いつの世の人もわたしを幸いな者と言うでしょう、
力ある方が、わたしに偉大なことをなさいましたから。
その御名は尊く、その憐れみは代々に限りなく、主を畏れる者に及びます。
主はその腕で力を振るい、思い上がる者を打ち散らし、
権力ある者をその座から引き降ろし、身分の低い者を高く上げ、
飢えた人を良い物で満たし、富める者を空腹のまま追い返されます。
その僕イスラエルを受け入れて、憐れみをお忘れになりません、
私たちの先祖におっしゃったとおり、
アブラハムとその子孫に対してとこしえに。

3章

マリアニスト家族の組織

1. マリアニスト家族

マリアニスト家族は、その精神を生きるために、次の4つの組織で構成され、多様な現実社会に対応しています。わたしたちはしばしば、マリアニスト家族を1本の樹木と見なして、これらの4組織を「枝」と呼んでいます。

① **信徒マリアニスト共同体 (MLCまたはCLM)** …1801年創立

信徒として生きる人たちの共同体です。現在、世界各地に共同体が広がっています。

② **アリアンス・マリアル (AM)** …1808年創立

社会の中で個人として生活しながら、マリアニスト家族の精神を生きることを「誓願」の形で表明した人たちの共同体です。在俗会と言えます。

③ **汚れなきマリア修道会 (FMI)** …1816年創立

信仰教育と信仰共同体の形成を目的とし、修道者として生きる女性の共同体であり、その福音宣教の手段は普遍的です。

④ **マリア会 (SM)** …1817年創立

信仰教育と信仰共同体の形成を目的として、修道者として生きる男性の共同体であり、司祭修道者と信徒修道者とで構成されています。

各枝の略称を、英語とフランス語の正式名称で示すと、

MLCまたはCLM: Marianist Lay Communities (英)、
Communautés Laïques Marianistes (仏)

AM : Alliance Mariale (英)、 Alliance Mariale (仏)

FMI : Daughters of Mary Immaculate (英)、
Filles de Marie Immaculée (仏)

SM : The Society of Mary (英)、 Société de Marie (仏)

なお、「汚れなきマリア修道会」のシスターを、Marianist Sisters (英)、
Soeurs Marianistes (仏) で呼称しています。

2. 世界マリアニスト家族評議会

4つの組織(枝)がその使命遂行のため、世界のさまざまな状況で互いに交流し、協力し合えるよう、マリアニスト家族は世界評議会を置いています。

目的 : メンバー間の交流促進、宣教目標の提案など

構成員: 信徒マリアニスト共同体(MLC)、アリアンス・マリアル(AM)、
汚れなきマリア修道会(FMI)、マリア会(SM)、
以上4枝の代表者とその補佐。

3. 信徒マリアニスト共同体(MLC)

世界で活動するマリア会および汚れなきマリア修道会によって呼びかけられ、組織されていた世界各地の信徒のグループは、1993年にチリのサンチャゴに集まりました。そこで彼らはお互いに共通の精神を確認し、**信徒マリアニスト共同体(MLC)**と改称し、世界



のグループが一つの組織となって新たなスタートを切りました。この精神は「サンチアゴ宣言」、すなわち「信徒マリアニスト共同体のアイデンティティ」*5に述べられており、その後の各国のMLCの基本的精神となっています。

信徒マリアニスト共同体は、2000年3月25日にバチカンに仮認証され、試験期間を経て、2006年2月22日に正式に認証されました。

(邦訳した認証書を次ページに掲載。)

注*5 clm-mlc.org/english/documents 参照。マリアニストのWebにも掲載されています。



教皇庁 信徒評議会

299/06/S-61/B-08

教 令

キリスト信者の国際私的会である信徒マリアニスト共同体が、2000年3月25日から5年間の試験期間を経過して教会の承認を受けたことを考慮し(Prot.N.450/00/S-61/B-98)；信徒マリアニスト共同体の世界評議会議長であるアントニ・ガラシア氏の名前で、ラテンアメリカ地域の代表者であるエゼキエル・エイチ・レギアニ氏によって、この信徒マリアニスト共同体の定款の最終的承認願いを本会に提出したことを受けて。

信徒マリアニスト共同体の定款を最終的な形で承認する機会を考慮し；

定款のテキストに提示された修正のために；

ローマ教皇庁に関する使徒憲章「良き牧者 131-134条」と教会法 312 (1) 1.によって教皇庁信徒評議会は、下記の教令を発する。

教 令

1. 教会法第 298-311 条と第 321-329 条に則って、信徒マリアニスト共同体をキリスト信者の国際私的会として認めたことを確認する。
2. 信徒マリアニストの定款をその新しい版で最終的に承認する。
その原本は教皇庁信徒評議会の公文書館にある。

バチカン市にて 聖ペトロの使徒座の祝日に 2006年2月22日

+ *Dr. Clemens*
Josef Clemens
Secretario



+ *St. Rylko*
Stanisław Rylko
Presidente

ヨセフ クレメンズ

スタニラウス リイルコ

書記官

評議会議長

世界の国々の各共同体は、以下のように、世界、地域、国のそれぞれのレベルで組織されています。

(1) 国際チーム 世界レベルの組織

- 目的：1. 世界のMLC会員間の交流を促進する。
2. マリアニスト家族の他の枝 (SM, FMI, AM) との国際レベルでの交流を促進する。
3. マリアニストのカリスマの生き方、教会での役割、地球的な社会正義問題に対する共通の考え等を推進する。

構成員：以下の4地域の各代表者と国際チーム代表の計5名

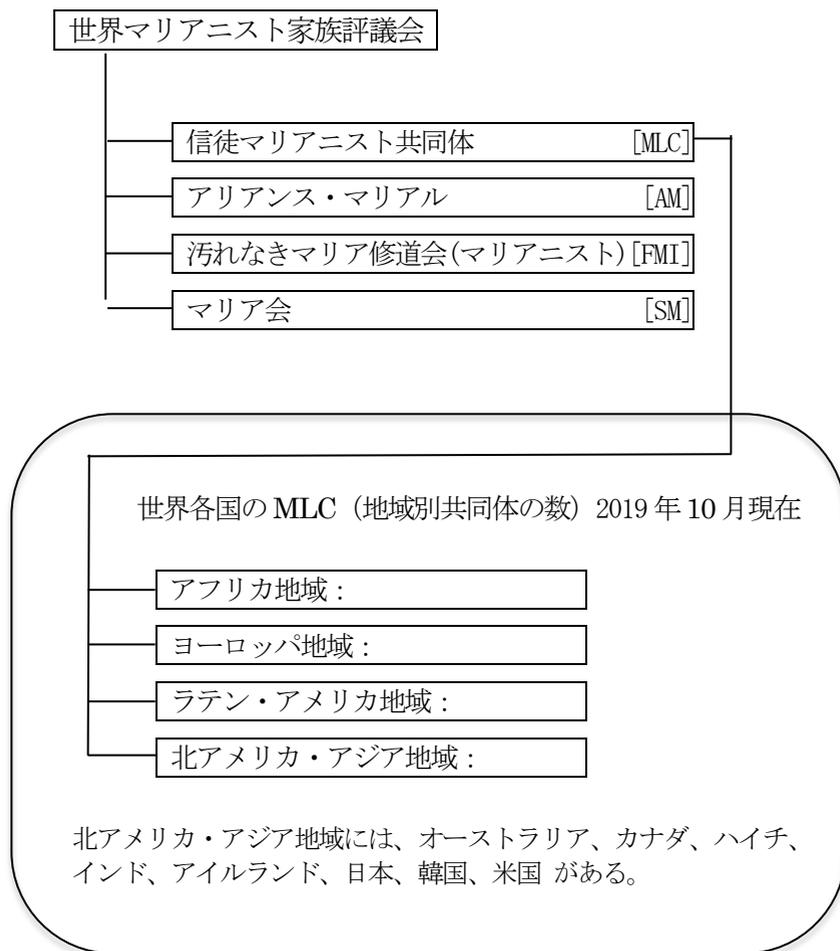
- ① アフリカ地域 ② ラテン・アメリカ地域
③ ヨーロッパ地域 ④ 北アメリカ・アジア地域

【2015年現在の代表者名】

フェリックス・アルケロス氏 : 会長
スーザン・ヴォート氏 : 北アメリカ・アジア地域代表
イザベル・ドート氏 : ラテン・アメリカ地域代表
フランシスカ・M・ジェール氏 : アフリカ地域代表
ビートリス・ルブラン氏 : ヨーロッパ地域代表
マリア会のパブロ・ラムバウト師 : モデレータ

【clm-mlc.org/english に最新情報が掲載されます】

(2) 世界のマリアニスト家族組織



北アメリカ・アジア地域では、「GIFTS&TASKS」誌を発行しており、日本では日本語に訳されて各共同体の代表を経由して会員に渡るようにしています。日本にも、4枝からなる「日本マリアニスト家族評議会」があります。

(3) 世界会議

1993年から4年に1回、世界の信徒マリアニスト共同体の各国の代表者が議題を決めて集い、会議をしています。開催状況は、下記のとおりです。

(2019年現在)

年月	議 題	開催国
1993. 2	信徒マリアニストのアイデンティティ	チリ
1997. 8	信徒マリアニスト共同体の宣教	スペイン
2001. 8	共同体に生きる	米国
2005. 7	マリアと協力して	フランス
2009. 8	教会と世界におけるMLC	ケニア
2014. 1	世界の中心における心の信仰	ペルー
2018. 8	手に手をとって歩む	韓国

世界会議の様子は、Web でご覧になれます。

4. 日本信徒マリアニスト共同体 (日本MLC)

わたしたちは「日本信徒マリアニスト共同体 (略称：日本 MLC)」と呼ばれる組織に属していますが、この組織もその精神をサンチアゴ宣言で述べられた精神と同じくしており、世界の信徒マリアニスト共同体の日本支部ともいべきものです。以下にその組織の特徴を述べます。

(1) 共同体

日本信徒マリアニスト共同体は、全国各地の複数の共同体によって

構成されており、すべての会員はいずれかの共同体に属しています。

これらの共同体はすべて以下の特質を持っています。

- ・わたしたちは、世界における教会のミッションに参加するキリスト者の共同体です。
- ・わたしたちは、創立者のカリスマからインスピレーションを受けているマリアニスト家族に属しています。
- ・わたしたちは、世の救いのためにマリアの子となられた神の子イエス・キリストに似たものになるように召されています。
- ・わたしたちは、聖霊に鼓舞されて、マリアと一致します。

(2) 総会・代表者会議・評議会

本会の精神を具体化していくためには、各共同体が協力しあうことが必要です。そのため、意見調整、発議、方針、決定、実施等が円滑に進められるよう、必要な会議体を設けています。

- ① **総会**:すべての奉献会員で構成され、原則的に年1回開催されます。ここでは年間の運営基本方針の決定、規約の改廃等、最も基本的で重要な決定が行われます。
- ② **代表者会議**:各共同体の代表者(かつ奉献会員)と会長、霊生部長、教育部長、財務部長で構成されます。総会で決定した基本方針に沿って、重要な運営上の課題を審議し決定します。
- ③ **評議会**:会長、霊生部長、教育部長、財務部長によって構成されます。総会および代表者会議の決定に沿って、実務を行います。さらに、4枝からなる「日本マリアニスト家族評議会」にMLCとして参加します。また、実務執行のために、編集委員会、行事委員会、渉

外委員会等を設けることがあります。

(3) 規約など

日本MLCでは、1997年に規約、細則および規程を制定しました。
規約には、本会の精神および会の運営に必要な基本的組織のあり方を定めています。また、**細則**では規約の内容をさらに具体化し、**規程**では実務執行に必要な委員会等のあり方を規定しています。規約の改訂・廃止は総会での承認が必要ですが、細則と規程の改廃は代表者会議の承認によって可能です。(規約等の詳細は、「日本信徒マリアニスト共同体規約および細則、規程」をご覧ください。)

(4) 会員としての心得

- ① **祈る** …… 特に「マリアへの奉獻の祈り」および「三時の祈り」を毎日唱えます。
- ② **本会の精神を生きる** …… 世にあつて、神の民の証しとなることが、その基本です。
- ③ **自らの靈性を高める** …… 世のあかしとなるには、人格的な成長はもちろんのこと、靈性を高める必要があります。
- ④ **共同体の例会や活動に積極的に参加する** …… 私たちは共同体の活動をとおして、会の精神を生きています。その中心となるのは例会です。
- ⑤ **会費を納める** …… 会員の皆様には、年会費をいただくことをお願いしています。集められた会費は、資料作成費、通信費、交通費など会の活動のために使われます。

付録1 キリスト者の信仰の基本

この手引きの1章～3章で、わたしたちは、マリアニストについて基本的なことを学びました。この付録では、マリアニストの前提であるキリスト者であることの意味、つまり、キリスト者とはどのような信仰を生きる人々なのか、について基本的なことを復習したいと思います。マリアニストとして成長する過程で、わたしたちのキリスト者としての信仰を確認するために、必要に応じてこの基本的な内容を参考にしたいと思います。

1. 父なる神の救いへの招き

人々をご自分のいのちに与かるように招く人となられた神のひとり子イエス・キリストは、ご自分の生涯と死と復活を通して、父なる神が人間を限りなく愛しておられることを表わして下さいました。即ち、「父なる神は、わたしたち一人一人をかけがえのない者として、先に、無償で、自由に、だれひとり例外なく、愛しておられる」ことを教え、わたしたちが「このような神の愛に受け容れられていることを受け入れる勇氣」（ポール・チリッヒ）を持つようにと呼びかけておられます。

(1) キリストの派遣

神はキリストを諸民族の光とし、すべての被造物に福音を告げる使命をお与えになりました。キリストにおいて、神は目に見えるかたちで人々を愛し続けておられます。

イエスの誕生：神の御ひとり子が、人となってわたしたちのうちに
住まわれました。イエスの言葉、行い、死と復活、
すなわち、その全生涯は、父なる神の人間への愛と救い
のあらわれです。

- ① お告げ：誕生する子どもは誰であるかが告げられ、マリアは深い
信仰でそれに応えます。(ルカ 1:26-38 参照)
- ② 聖霊によって：イエス・キリストは、聖霊によってマリアに宿られ
ました。人の中に神のいのちが宿り、成長するのは聖霊の働きによ
ります。
- ③ 神が人となる：わたしたち人間と同じ者になられたのは、人類の
先頭に立って、わたしたちを神のいのちへと招き入れるためでした。
イエスはマリアからお生まれになりました。(マタイ 1:16 参照)
- ④ インマヌエル：「わたしたちと共におられる神」であるイエス・
キリストによって、わたしたちは神の心を知り、神のいのちに生き
ることができます。(マタイ 1:23 参照)

神の国の宣教：「時は満ち、神の国は近づいた。悔い改めて福音を
信じなさい。」(マルコ 1:15)

- ① 時が満ちた：イエス・キリストによる宣教活動の開始と共に、約束
された救いの時が到来しました。(イザヤ 52:7-10、ヨハネ 2:1-11
参照)
- ② 神の国：神の愛の息吹に生かされて、救いの新しいいのちへと
導かれる状態。

- ③ 悔い改め：自分中心（人間中心）の生き方から、神が大切にされるものを大切にする生き方へと方向転換（回心）するように招かれることです。
- ④ 福音：イエスの教えとわざを通して、わたしたちにもたらされた良い知らせ(Good News) であり、またイエスご自身を意味します。
- ⑤ 信じる：イエス・キリストとその福音を、神がご自身を顕わされた出来事（神の自己啓示）として受け入れ、イエス・キリストに自分を委ね、キリストとの親しい交わりに生きることです。

過越の秘儀：キリストの死と復活の秘儀

- ① 最後の晚餐：
 - a) 旧約の三つの重要な出来事、すなわち過越（出エジプト）、シナイの契約、バビロン補囚からの解放との関係
 - b) 新しい過越の子羊としてのイエス
 - c) 最後の晚餐の記念としてのミサ
- ② 十字架の死：
 - a) 主の僕としてのイエスの死（イザヤ 52-53）
 - b) 神への叫び（マルコ 15:34）と詩編 22 との関係
 - c) イエスの苦しみとわたしたちの救い
 - d) 神の最高の愛の表現
- ③ 復活：
 - a) 父なる神が、ご自身が誰であることを示された出来事
 - b) 「イエスは主である」ことが示された出来事
 - c) わたしたちの救いが「死を越えたいのちの希望に生きる」

ことが示された出来事

(2) 教会の誕生

教会は、復活によって今ここに生きておられるキリストであり、このキリストのいのちに結ばれているわたしたちのことです。

(3) 聖霊の派遣

復活されたキリストは、わたしたちに聖霊を遣わされます。その聖霊は、わたしたちを神のいのちに生かし、神のいのちへと導き、交わりと奉仕において一致させます。

(4) キリスト者

キリストのいのちに繋がれ、神の愛を生き、それを証しする人々です。

2. キリスト者の応え (キリストのいのちに生かされて)

イエス・キリストの呼びかけに応え、神の愛を信じる人々は、一つの新しい集いを形づくっています。この共同体は「キリストの教会」と呼ばれ、そのメンバーは「キリスト者」と呼ばれます。彼らは、イエス・キリストによって示された生き方、即ち、信じ、愛し、希望することを根本的な生き方とする人々です。キリスト者は、復活の信仰のうちに、神の愛の対象であり、人々の真剣な努力と愛によって築き上げられた人類の歴史が完成される時を、待ち望んでいます。この同じ希望によって、キリスト者は今のこの生活を真剣に生きるようにと励まされるのです。

(1) 洗礼：キリストの死と復活の秘儀にあずかるもの

「水」のシンボル…人にいのちと死をもたらすもの

① 水に入る：「古い人に死ぬ」… (キリストの死にあずかる)

② 水から出る：「新しい人」に生きる…（キリストの復活にあずかる）
<もう一人のキリスト>になることによって「マリアの子」となる>

(2) 堅信：キリストの使命（祭司職、預言職、王職）に参加する。

・ 祭司職……神と人との唯一の仲介者イエスの使命に与る働き。

つまり、以下の二つの働きである。

① 人々の祈りを神に奉献し、また、神の祝福を人々に取り次ぐ。

② 特に、祈りを通して神との深い、豊かな交わりへと成長する。

・ 預言職……神のみ言葉に耳を傾け、理解し、宣べ伝える働き。

・ 王 職……神の慈しみをこの地上に実現する働き。

3. マリア

神の母は、神の子イエスに一致しているゆえに人間の母です。これはまさしく「教会憲章」第8章マリアに関する記述の展開です。ここで、キリストの生活に一致したマリアの生活に関して書かれており、このためにマリアは、キリスト者の母であると公会議では結んでいます。（教会憲章8章：キリストと教会の神秘の中の神の母、聖なる処女マリアについて）

マリアはキリストの典型（教会憲章第8章63より）

神の母は、信仰と愛、またキリストとの完全な一致の領域において、教会の典型である。・・・マリアは信じそして従い、しかも男性を知らず、聖霊に覆われ、新しいエバとして、いかなる疑念にも惑わされない信仰を、古い蛇にではなく、神の使いに示して、父の御子を地上に

誕生させた。マリアは子を生み、神はその御子を多くの兄弟、すなわち信者たちの中の長子とした。(ロマ 8:29 参照) つまりマリアは、母としての愛をもってこの兄弟たちを生み育てることに協力している。

マリアは教会の模範 (同 63, 64 より)

教会は正当に母とも処女とも呼ばれるが、その教会の神秘において、聖なる乙女マリアは、他に先駆けて、処女としても母としても卓越した独自の模範を示した。教会はマリアの秘められた聖性を観想してその愛を模倣し、父のみ心を忠実に果たし、忠実に受け入れた神のことばによって、自分もまた母となる。……

マリア信心のあり方 (同 67 より)

教会のすべての子らに、聖なる処女に対する崇敬、とくに典礼による崇敬にふさわしく励むように思い起こさせ、教会の教導職が世々勧めてきたマリアに対する信心の慣習や実践を重んじ、……真の信仰は、神の母の卓越性を認めるようにわれわれを導き、われわれの母を子として愛し、母の徳を模倣するように、われわれを励ますのである。

付録2 「マリアへの奉献」養成プログラム

奉献にあたっての準備

1. 信徒として生きる

キリスト者の信仰の基本

＜マリアニストの手引き（以降手引きと記述）付録1＞

（教皇の使徒的勧告、回勅などどれでもよいのでその内容に触れる）

2. マリアニストとして生きる

マリアニストの家族の概観 …………… 【手引き3章】

- ・ 家族の構成
- ・ 世界におけるマリアニスト家族の構成
- ・ マリアニスト家族の組織
- ・ 自分のいる共同体とその位置の確認

3. 創立者と歴史 …………… 【手引き1章1】

- ・ 創立者
- ・ グループの誕生

4. 信徒マリアニスト共同体の精神と目標 … 【手引き1章2、3】

5. マリアとの契約 …………… 【手引き2章1～4】

6. 信徒マリアニストの成長の歩み … 【手引き2章5】

第一の歩みと第二の歩み

7. マリアへの奉献の祈りと三時の祈り … 【手引き2章6】

8. 奉献前の準備

奉獻後のフォロー

- ・ 各個人の状況に応じて、全体の復習
- ・ マリアニストの成長の第二の歩み …
などに進める。

【手引き 2 章 5】

付録3 おすすめの書籍

- (1) シャミナード師のメッセージ ～その現代的意味～
………… エドアルド・ベンヨック著 清水一男訳
- (2) 神の愛 そのすばらしい計画
…… ケンティン・ハーケンワース著 日本MLC訳
- (3) マリー・テレーズ・ド・ラムルス
…………… ジョセフ・ステファネリ著 日本MLC訳
- (4) イエスの徳に学ぶ ……………ケンティン・ハーケンワース著
日本MLC訳
- (5) マリアの素描 …………… 朝山宗路著 サンパウロ
- (6) 第二バチカン公会議 教会憲章…………… カトリック中央協議会
- (7) 回勅 救い主の母 …………… 教皇ヨハネ・パウロ二世 ペトロ文庫
- (8) 使徒的勧告 信徒の召命と使命
…………… 教皇ヨハネ・パウロ二世 ペトロ文庫
- (9) 使徒的勧告 マリアーリス・クルトゥス 聖母マリアへの信心
…………… 教皇パウロ六世 ペトロ文庫
- (10) 使徒的勧告 福音の喜び …………… 教皇フランシスコ
日本カトリック新福音化委員会訳 カトリック中央協議会
- (11) 回勅 信仰の光 …………… 教皇フランシスコ カトリック中央協議会
- (12) マザーテレサ 来て わたしの光になりなさい！
…………… マザーテレサ著 女子パウロ会

参考文献

- (1) キリスト教入門 …………… P. ネメシエギ著 南窓社
- (2) カトリックの信仰…… 鹿児島教区司祭評議会編 あかし書房
- (3) キリストを知るために…………… 百瀬 文晃著 中央出版社
- (4) キリストとその教会…………… 百瀬 文晃著 中央出版社
- (5) イエス・キリストを学ぶ…………… 百瀬 文晃著 中央出版社
- (6) 回勅 救い主の母……………教皇ヨハネ・パウロ二世 ペトロ文庫
- (7) 信仰の母マリア…………… 吉山 登著 女子パウロ会
- (8) ミサーその意味と歴史…………… 土屋 吉正 あかし書房
- (9) マリアの宣教者…………… J・B・アームブルッセル著 山下孝子訳
- (10) 第二バチカン公会議公文書 …………… カトリック中央協議会
- (11) 第二バチカン公会議に学ぶ ……………糸永真一著 サンパウロ

あとがき

「信徒マリアニストの手引き」をお手に取っていただき、有難うございます。この手引きは、マリア様に導かれてあなたのもとに届けられたのでしょうか。この手引きは、2000年に初版が発行されましたが、その後、時代の流れと共に使われている用語の変化などがあり、改訂することを望まれておりました。基本的には初版の内容を継承しておりますが、主な修正・追加箇所は、以下の通りです。

用語の変更など

- ・ 評議員会 → 代表者会議、執行部会 → 評議会
象牙海岸 → コート・ジボワール など

世界会議や海外から送られてくる資料に関連した修正・追加

- ・ 1章1. マリアニスト家族の歴史と精神の冒頭部分
- ・ 2章6. 結びに、マニフィカトを追加
- ・ 3章3. 信徒マリアニスト共同体の内容

あらたに項目を設けて追加した箇所

- ・ 1章1. (3) 尊者マリー・テレーズ・ド・ラムルス
- ・ 2章5. 信徒マリアニストの成長の歩み
- ・ 付録2 「マリアへの奉獻」養成プログラム
- ・ 付録3 おすすめの書籍

この「信徒マリアニストの手引き」によってマリアニストとしての生き方を身につけられて、霊的な成長に、日頃の生活に、各共同体の運営に役立ててくだされば幸いです。

なお、今回の改定にあたり清水一男神父、Sr. 小林幾久子、および旧評議会の皆様には、さまざまなご協力をいただきましたことを厚くお礼申し上げます。

マリアニストのWebページには、最新情報を掲載します。必要に応じてご参照ください。(URL : www.marianist.jp)

日本信徒マリアニスト共同体「信徒マリアニストの手引き」編集部

信徒マリアニストの手引き

2000年4月 初版発行

2015年6月13日 改訂第1版発行

2019年10月 改定電子版発行

編集 日本信徒マリアニスト共同体

発行 日本信徒マリアニスト共同体

